報道各社の皆様への研究成果のご紹介

～現代に再現　江戸時代後期の磁器『太白焼（たいはくやき）』の技術～
セラミックス研究所

日　時　　令和６年８月２１日（水）　１３：３０～１４：３０
場　所　　県庁3階　会議室304

（発表の内容）

江戸文化年間(1804～)頃に当時の美濃・瀬戸地域で始まった太白焼という焼物があります。素地に描かれた呉須（ごす）は滲み、釉薬（ゆうやく）は斑（まだら）があって、黒点も着いており、今の磁器にはない素朴さと温かみを感じる染付磁器ですが、透光性が高く鮮やかな呉須を使った磁器が台頭するようになり、1870年頃から作られなくなりました。

セラミックス研究所がこの太白焼の素地と釉薬の分析を行い、食器ではあまり使わない青サバ※1を活用して、当時の太白焼の雰囲気をもつ染付磁器を再現することに成功しました。この成果を(株)幸兵衛窯（こうべえがま）に技術移転し、このたび、同社から新しいコンセプトで『新生太白焼』を復興し、展示会にて発表することとなりました。また、茶碗100個とぐいのみ100個が予約限定で販売されます。

『新生太白焼』製品開発コンセプト

令和現代に即したSDGs を考慮してGL21※2 の素地を用い、青サバを素地と釉薬に混入しながら太白焼の呉須の青がぼんやりと見える素朴さと、透明釉の濁りや色斑から温かみを表現し、焼成方法は昔ながらの穴窯で行った「新生太白焼」。

江戸後期太白焼

再現した太白焼
セラミックス研究所

新生太白焼
(株)幸兵衛釜

展示会：太白焼展　～近代美濃のはじまり～
日　時：2024年9月27日(金)～11月24日(日)
場　所：市之倉さかづき美術館　1F 企画展示室
（岐阜県多治見市市之倉町6-30-1）

※1　不純物(雲母類)が多く、製品の着色や石こう型からの取り外しに課題があったため、あまり使用されていない原料
※2　使用済み食器を回収し、荒く粉砕した後、20%&50%の割合で粘土などに混ぜ込み、さらに約7ミクロンにまで粉砕したもの

問い合わせ窓口：産業イノベーション推進課　内線3744　　セラミックス研究所　Tel 0572-22-5381
イノベーション推進係長　小川　　技術支援部長　倉知
イノベーション推進係　木村　　主任専門研究員　小稲